

(二〇二〇年度)

5 国 語 問 題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能を使用してはならない。また、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいいいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

一

批評家の東浩紀^{あずまひろき}は書籍の出版やトークイベントの開催、カルチャースクールの運営を業務とするゲンロンという会社を運営している人物である。次に示すのは、東が「運営の思想」と「制作の思想」（黒瀬陽平の著書の言葉が借用されている）という言葉を用いながらこの会社の方針を説明した文章である。AとBの文章のあいだには、東がある社内事情のためにゲンロンの代表を降りに経緯の説明が入る。これを読んで後の問に答えよ。

A

「運営の思想」は、SNSや動画投稿サイトにおいて、コンテンツの投稿や生成を最大化するように仕組みを整える、文字どおり「運営」の発想を意味する。他方で「制作の思想」は、そのような仕掛けに抵抗しつつ、あるいはそれを利用して、独自の作品を作ろうとするクリエイターの試みを意味する（黒瀬自身はここまで明確な定義は与えていない）。つまり、運営の思想とは、プラットフォームのほうがコンテンツよりも優位だと考える立場のことで、制作の思想とは、コンテンツのほうがプラットフォームよりも優位だと捉える立場のことである。

黒瀬の著作の主題はネット時代の創造性にある。だから「運営の思想」と「制作の思想」の対立は、ネットでは前者が圧倒的に優位だが、それだけでよいのかという問題提起のために導入されている。けれども、この概念の対立そのものは、ネットカルチャーやポップカルチャーにとどまらず、より広く文化の分析一般に応用することができる。

運営の思想とは、ひとことでは、商品開発の思想であり、資本主義の思想のことである。現代は運営の思想が優位な時代だが、しかしそれだけでは、文化「産業」は¹栄えても文化そのものは¹痩せ細るとはよく考える。

なぜか。それは、プラットフォームからすれば、コンテンツはあくまでも代替可能で交換可能な「商品」でしかないからである。たしかに制作者には、運営のいうことを聞かない自由がある。しかし、運営者のほうにも制作者を交替させる自由がある。そして両者の葛藤が起きたとき、力関係は明白である。

とくにネット時代の現代は、²両者の力の非対称が極端である。いまはクリエイター志望者は無数にいる。しかしプラットフォーム

フォームは少数しかない。したがって、クリエイターは数少ないプラットフォームに殺到するほかないが、プラットフォームのほうは、運営の意向に忠実なクリエイターをいくらでも市場から調達できることになる。そしてプラットフォームは、数の論理にどこまでも忠実である。結果として、市場では、大衆が求めるものばかりが増殖し、コンテンツの多様性は消えることになる。SNSや動画投稿サイトの実態を知らなくても、この状況認識を共有する読者は多いだろう。

運営の思想と制作の思想というこの対立を導入すると、ゲンロンの特異性を簡単に理解することができる。³

ゲンロンではほくは経営者である。そして同時に、書籍やトークイベントといった主力商品の制作者でもある。つまりはゲンロンでは、運営の思想と制作の思想の担い手が一致している。

これは、ゲンロンという組織のもっとも顕著な特徴である。ゲンロンと同規模の小出版社やイベントスペースは多くある。また、ほくと同じでいどの知名度でコンテンツの管理を法人化している著者も数多くいる。けれども、ほくと同じように、現役のコンテンツ制作者であり続けながら、同時に自分以外の制作者を招くプラットフォームを作ろうとしている人間は、ほくの知るかぎりほとんどいない。この点で、ゲンロンは、いまの日本の言論界のなかで、きわめて特異な立ち位置を占めている。これはけっして創業者の最^{ひん}目^きではないと思う。

B

にもかかわらず、ほくはいまでも、もしゲンロンをこれからも続けるのであれば、かならず経営に復帰すべきだと考えている。なぜか。

それは、ほくが、運営と制作を切り離すこと、それそのものが異⁴だと考えているからである。

どういうことだろうか。じつは、さきほど述べたような「運営の思想の優越」に危機感をいただいている人々はたくさんいる。

それこそ、文系の大学教師や小さな出版社の編集者に会えば、たいがい似た話をする。そしてそのような人々の多くは、運営の思想が入り込まない、制作の思想優先の場を確保することが問題解決の方法だと信じている。具体的には、大学の文系学

部や美術館、人文系の出版社やNPOなどが、そのような「外部」として想定されることが多い。

けれども、⁵ほくの考えではその戦略は有効に機能しない。なぜなら、ほくたちはじつは、運営の思想すなわち資本主義の外部に出ることは、原理的にできないからである。運営の外部なるものを作る試みは、現実には「運営の外部を守ってくれる運営者」に依存することしか意味しない。具体的には、金のことなんて気にしなくていいよといってくれる、金のことを気にするひとに依存することしか意味しないのだ。教員のユートピアは大学が経営方針を変えたら終わりだし、編集者のユートピアは出版社が経営方針を変えたら終わりである。赤字文芸誌の出版はヘイト本の売り上げに依存しているし、若手演劇の世界では、助成金の申請に強いスタッフが重宝されるとの話も聞く。現代の「文化」の多くは、そのような脆弱な⁶基盤のうえで維持されている。

運営だけでは文化は滅びる。けれども運営の外部を作ろうとする試みは、ますます運営への依存を深める。金勘定をしないクリエイターは、金勘定をする運営の奴隷となる。ではどうすればいいのか。

ゲンロンはこのような認識を出発点にして設立されている。だからほくは運営と制作を切り離すことはしない。ではどうするのか。かわりにほくがゲンロンで試みてきたのは、運営の思想そのものを変形することである。

それは具体的にはつぎのようなことである。運営の思想は資本主義の論理である。もう一步踏み込んで哲学的に定義すれば、⁷「等価交換」の論理ということになる。運営者は、消費者に対価に応じたコンテンツを提供し、対価に応じた責任を負う。そしてその責任しか負わない。コンテンツを引き渡し、消費者がクレームをつけなければ、そこでプラットフォームとしての責任は終わる。コンテンツが「商品」だというのは、つまりそういうことである。

ゲンロンはその論理に抵抗しない。ゲンロンは無料の書籍を配布したり、無料の市民講座を開いたりはしない。むしろ商品を作る。そして売る。書籍を売り、トークショーを売り、ツアーを売り、スクールを売る。それは等価交換のなかにある。消費者は、知識や快楽を求めて、ゲンロンに金銭を支払う。ゲンロンは対価を受け取るかわりに、知識や快楽を提供する責任を負う。そのようにして、ゲンロンは、金勘定を自分のものとし、運営の奴隷となることを避けている。

けれども、その営みは完全に等価交換のなかにあるわけでもない。なぜならば、ゲンロンのコンテンツは、じつは商品であって、同時に商品でないからである。ゲンロンはコンテンツの提供にあたって、つねにそこに、等価交換以上の「なにか」を、すなわち、消費者が支払いのときに事前に欲望 \parallel 予想していたものとは異なる経験を忍び込ませるように試みている。たとえば、二時間のトークショーだといわれてカフェに来たら、五時間を超えて日付をまたいで話が続く。たとえば、原発事故についての本を買ったはずが、いつのまにか被災地の歴史をたどる旅に誘われる（『新復興論』）。たとえば、マンガ家育成の講座を受講したはずが、いつのまにか音楽イベントに参加させられたり、手打ちうどんを食べさせられたりする（ひらめき☆マンガ教室）。そのような「意外な展開」がゲンロンのコンテンツの最大の特徴であることは、多少とも弊社の「商品」に親しんでいる読者であれば、これ以上例を挙げなくても頷いてくれるのではないかと思う。

ゲンロンは、商品を売りながらも、つねにそこに余剰を忍び込ませている。そして、その余剰によって、購入者を等価交換の外部へと誘っている。これがぼくが考えた運営の思想への抵抗戦略である。

これは、等価交換を意図的に「失敗」させるということでもある。消費者は、ゲンロンにおいては、商品を買うことで、少なからぬ確率で、最初に欲望 \parallel 予測していたものとはちがうなにかを受け取ってしまう。それは等価交換の失敗である。けれどもその失敗は、同時に、購入者の欲望 \parallel 予測が「変形」され、新たな創造性の回路が開かれるということでもある。ぼくはしばしばそれを「誤配」と呼んでいる。

これを、つぎのようにいいかえることもできる。制作の思想は、運営の思想の外部に静的に存在するのではなく、その失敗において動的に開かれる。

だから、ゲンロンは、商品のふりをして商品ではないものを売っている。NPOでも特殊法人でもない「ふつうの中小企業」として、金儲けをしているふりをして、金儲けと関係がないことを行っている。

（東浩紀『テーマパーク化する地球』より）

問一 傍線部1のように著者が考えるのはなぜか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a クリエイターたちが運営者の意向を重視し、ネット上のコンテンツの制作に熱中するために、文化的な事業が軽んじられてしまうから。

b プラットフォームの運営者たちはすでに膨大なコンテンツを所有しており、無数のクリエイターたちを基本的に必要としないから。

c 運営の思想が力を得ることはクリエイターたちの反発を生み出し、運営の思想と制作の思想の乖離かぶりがますます進むから。

d 多くの人々に享受されるコンテンツばかりがプラットフォームに増える結果として、同種の内容のコンテンツばかりが人々に提供されるようになるから。

問二 傍線部2はどういうことか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 制作者にとってプラットフォームは代替し難いものであるが、プラットフォームにとって制作者は代替しやすいものであり、そのためプラットフォームは制作者に対して優位に立つ。

b プラットフォームはネットカルチャーの隆盛を背景にしてしだいに多様化しており、そのためプラットフォームは制作者に対して優位に立つ。

c 制作者からの作品の継続的な提供なしではプラットフォームは立ち行かず、そのため制作者はプラットフォームに対して優位に立つ。

d 制作者は大きな利益を生み出すコンテンツを作る能力を持ち、そのため制作者はプラットフォームに対して優位に立つ。

問三 傍線部3はどのようなことか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 著者の東が過去においてのみならず、現在においてもコンテンツ制作者として現役であり続けているということ。
- b 著者の東自身がトークイベントなどのコンテンツを提供し、さらにコンテンツの管理も行っているということ。
- c 著者の東の執筆活動とトークイベントへの登壇を高く評価する人々が日本の言論界に多く存在しているということ。
- d 著者の東が日本の言論界で積極的な発言者として活動しているながら、小出版社と同じ規模の法人化した企業に所属しているということ。

問四 傍線部4はどのような意味で使われているか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 一見解決案に見えるものの、その実、別の問題をもたらすもの。
- b 一見善意からの提案に見えるものの、その実、人の悪意にもとづいたもの。
- c 一見利益を増大させる方針に見えるものの、その実、収益の悪化につながるもの。
- d 一見大衆が欲望するものに見えるものの、その実、制作者の欲望にもとづいているもの。

問五 傍線部5のように著者が考えるのはなぜか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 制作の営みはつねに金銭的な支援を申し出る運営者を探し出し、その運営のあり方にもすすんで参画せざるをえなくなるから。

b 制作の営みと運営との関係が薄れてしまい、その結果、制作は非営利的な性格を帯び、消費者たちに対する訴求力を失ってしまうから。

c 制作の営みが大学の文系学部や美術館といった限定的な領域において存続することになり、快樂を求めて商品を買う人々にとってよそよそしいものになるから。

d 制作の営みが自己を支えてくれる運営を頼みとし、この運営の意向に左右されるようになるという結果を招くから。

問六 傍線部6の「脆弱な」という言葉はこの文脈でどのような状況を指して使われているか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 文化の担い手は、あまり利益を生み出さないという理由で運営者によって攻撃される立場にあり、そうした運営者に対して自己の立場を正当化し続けなければならないということ。

b 文化の担い手は運営資金の減少に苦しむ大学の文系学部、赤字に苦しむ小さな出版社の中に自己の居場所を見出さねばならないということ。

c 文化の担い手は金銭的な問題から自由であるわけではなく、あるとき突然活動資金が途絶える可能性がある不安定な状況に身を置いているということ。

d 文化の担い手はあまり多くの利益を生み出さない商品を作り続けるために、知識や快樂を求める消費者に見放されているということ。

問七 傍線部7に適合する事例はどのようなものか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 書籍の刊行を通じて知識や快楽を求める消費者の知的好奇心をいっそう高めること。
- b 運営者が消費者のクレームに対応する専門の部署を設けること。
- c 消費者が支払う金銭に見合う価値を持つ商品を運営者が提供すること。
- d 無料のトークショーの開催など、非営利的な活動を通じて自社の認知を高めること。

問八 傍線部8はどういうことか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 消費者に商品を有料で提供し、別の機会にその消費者に商品が無償で提供することで、消費者からの信頼を高める工夫をすること。
- b 消費者がある商品を購入する際に、それに関連するトークショーやツアーやスクールなどの商品を同時に購入できるように工夫すること。
- c 消費者に対して対価に応じた商品を提供するとともに、次回の商品の購入をも誘いかけることによって消費者との長期的な信頼関係を築くということ。
- d 消費者に対して対価に応じたコンテンツを提供するだけでなく、消費者の当初の予想を裏切るような体験をも提供するということ。

問九 傍線部9に適合する行為ではないものを次の中から一つ選べ。

- a 金儲けをしているようにふるまいながら、金儲けと関係がないことを行う。
- b 自分自身で金勘定をし、運営の奴隷となることを避ける。
- c 商品のふりをして商品ではないものを売る。
- d マンガ家育成の講座で受講者を、マンガ家育成とは関係がないような出来事に遭遇させる。

問十 本文の内容に合致するものを次の中から一つ選べ。

- a ゲンロンでは当初消費者が欲望に予測していたものとは違うなにかを提供することが運営の思想への抵抗戦略として位置づけられている。
- b 美術館やNPOのように資本主義の論理が入り込まない、クリエイターの意向が尊重される場を確保することがゲンロンで目指されている。
- c ネットカルチャーの隆盛を背景にして無数のクリエイターたちが数少ないプラットフォームに殺到している現代は、制作の思想が優位になった時代である。
- d ゲンロンでは運営の思想の優越への危機感から、制作者たちが等価交換をしなくてよい場を提供する試みが続けられている。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、原文には欠字があるが、注釈等を参看して、文字を入れた箇所がある。

今は昔、法成寺の阿弥陀堂の檐に、蜘蛛の網を造りたりけり。その糸長く引きて、東の池にある蓮の葉に通じたりけり。

これを見る人、「遥かに引きたる蜘蛛の糸かな」など云ひてありける程に、大きな蜂一つ飛び来たりて、その網の辺を渡りけるに、その網に懸かりにけり。その時に、いづこよりか出で来たりけむ、蜘蛛糸に伝ひて急と出で来て、この蜂をただ巻きに巻きければ、蜂巻かれて逃ぐべき様もなくてありけるを、その御堂の預かりなりける法師、これを見て、蜂の死なむずるを哀れんで、木を以て搔き落としければ、蜂土に落ちたりけれども、翼をつぶと巻き籠められてえ飛ばざりければ、法師、木を以て蜂を抑へて、糸を搔き去けたりける時に、蜂、飛びて去りにけり。

その後、一兩日を経て、大きな蜂一つ飛び来たりて、御堂の檐にぶめき行く。それに次ぎて、いづこより来たるとも見えで、同じ程なる蜂、二三百許り飛び来たりぬ。その蜘蛛の網造りたる辺に皆飛び付きて、檐・垂木の迫などを求めけるに、その時に蜘蛛見えざりけり。蜂、暫くありて、その引きたる糸を尋ねて、東の池に行きて、その糸を引きたる蓮の葉の上に付きて、ぶめき啜りけるに、蜘蛛それにも見えざりければ、時半許りありて、蜂皆飛び去りて失せにけり。

その時に、御堂の預かりの法師、これを見て怪しむ思ふに、「これは、早う、一日蜘蛛の網に懸かりて巻かれたりし蜂の、多くの蜂を倡ひて来て、敵罰たむとて、その蜘蛛を求むるなりけり。然れば、蜘蛛は、それを知りて隠れにけるなめり」と心得て、蜂ども飛び去りて後に、法師、その網の辺に行きて檐を見るに、蜘蛛、更に見えざりければ、池に行きて、その引きたる蓮の葉を見れば、その蓮の葉をこそ、針を以て差したる様に隙もなく差したりけれ。然て、蜘蛛は、その蓮の葉の下に、蓮の葉の裏にも付かで、糸に付きて螫されまじき程に、水際に下りてこそありけれ。蓮の葉裏返りて垂れ敷き、異草どもなど池に滋りたれば、蜘蛛、その中に隠れて、蜂は見え付けざりけるにこそは。預かりの法師、かくと見て返りて語り伝へたるなりけり。

これを思ふに、智りあらむ人そら、然はえ思ひ寄らじかし。蜂の、多くの蜂を倡ひ集めて来て、怨を報ぜむとするは然もあ

りなむ。獸は皆互ひに敵を罰つ、常の事なり。それに、蜘蛛の、「蜂我れを罰ちに來たらむずらむ」と心得て、「然て許りこそ命は助からめ」と思ひ得て、わりなくしてかく隠れて、命を存する事はありがたし。然れば、アには、イ遙かに増さりたり。

預かりの法師の正しく語り伝へたとや。

(今昔物語集)

〔注〕○法成寺…藤原道長創建の寺院。京都市上京区にあった。○御堂…法成寺の阿弥陀堂。

問一 傍線1「木を以て掻き落としければ」とあるが、法師はなぜ蜂を蜘蛛の糸から落としたのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 蜘蛛も蜂もその命の尊さを痛感していたので、双方の命を救うために努力しようと考えたから。
- b 蜘蛛の糸によって法成寺の景観が乱されると思い、蜂の方に加担しようとしたから。
- c 蜂を蜘蛛から救うことで、その後の展開に興味湧き、弱者と思われた蜂に加担したから。
- d その後の展開は全く想定せず、ただ目の前の蜂の命を救うことだけを考えてから。

問二 傍線2「ぶめき行く」とあるが、どのようなことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 蜂がぶんぶんと羽音を鳴らしながら、飛び込んでいった。
- b 蜂がぶんぶんと羽音を鳴らしながら、飛び回っている。
- c 蜂が軒に止まって、ぶんぶんと羽音を鳴らしている。
- d 蜂が軒の向こうに、ぶんぶんと羽音を鳴らして飛び去った。

問三 傍線3「蜘蛛それにも見えざりければ」とあるが、蜘蛛はどこにいたのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 御堂の軒の下
- b 東の池の蓮の葉の上
- c 東の池の蓮の葉の下
- d 東の池の蓮の葉の裏

問四 傍線4「早う」とあるが、どのような表現か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 思っていたより早く実現したことを示す表現
- b 新しく発見した事実に驚いている表現
- c すでに気付いていたことを再確認する表現
- d 以前からあったことに飽き飽きした表現

問五 傍線5「それを知りて」とあるが、蜘蛛は一体何を知ったと法師は考えたのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 法師が蜂の命を哀れんで、助けたこと。
- b 蜂が多く仲間を引き連れて復讐ふくしゅうに来ること。
- c 怨みを晴らすために、獣は互いに敵を討つこと。
- d 何があっても自分の命を失ってはならないこと。

問六 傍線6「然はえ思ひ寄らじかし」とあるが、知恵のある人でさえ思い付かないこととは、ここではどのようなことか。
次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 蜘蛛に襲われた蜂を救うと、大量の蜂が逆襲にやってくることを。
- b 蜂が必ず復讐にやってくることを、蜘蛛が気付いていたこと。
- c 蜘蛛と蜂の様子から、法師が命の大切さを実感させられたこと。
- d 蜂の逆襲に備えて、蜘蛛が思いがけない場所に隠れていたこと。

問七 傍線7「ありがたし」とあるが、作者は何に感心しているのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 何があっても自分の命を失うまいと、蜘蛛が懸命に隠れたこと。
- b 怨みを晴らすために、蜂が大群で蜘蛛を襲ったこと。
- c 蜘蛛の命も蜂の命も同じように大切にすべきこと。
- d どんなにうまく隠れても蜘蛛の居場所を法師が見付けたこと。

問八

ア

 および

イ

 には、どんな語が入るか。次の中からもっとも適切なものをそれぞれ一つずつ選べ。

- a 蜂
- b 蜘蛛
- c 人
- d 法師

問九 『今昔物語集』と同じジャンルに属する文学作品を、次の中から一つ選べ。

- a 歎異抄
- b 三冊子
- c 発心集
- d 愚管抄

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

明都穆云、世人作詩、以敏捷為奇、以連篇累冊為富。

非知詩者也。老杜曰、語不驚人死不休。蓋詩須苦吟、

則語方妙、不特杜為然也。賈閔仙云、兩句三年得、一吟

孟東野云、夜吟曉不休、苦吟鬼神愁。此都穆之言、非不是也。

4 今世作詩者、亦多欲敏捷。然不有其才、而初不得趣向、徒索

搜文字、強疾作句、則終不成詩。故不可敢喜敏捷。若得其趣

向、而首尾相應、乃成一詩、然不可直以示人。熟吟誦之、

可以鍊其風調也。然亦不可必至苦心。唯伸其志情、而因

其興象、乃欲以使人感焉耳。非敢可以文詞驚人。故子美之苦

吟、亦非三敢所_レ以_ニ可_レ慕_フ也。

(冢田大峯『作詩質的』)

〔注〕○賈閩仙：賈島のこと。 ○孟東野：孟郊のこと。

問一 傍線部1「非知詩者也」と言うのはなぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 杜甫のような突出した才能を持つ詩人の例を無視しているから。
- b 詩を作るのが早いことや、作品が多いことは、珍しいことではないから。
- c 作詩の早さや量と、詩の内容や音律との関係が、考慮されていないから。
- d じっくりと思いを凝らし、工夫を重ねてこそ、良い詩が生まれるから。

問二 傍線部2「兩句三年得、一吟」X「は対句を成している。そのことを踏まえて、空欄」Xを補うのにもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 九重聞
- b 白髮生
- c 双淚流
- d 断腸思

問三 傍線部3「非不是也」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 「是とせざるものを非とす」と読み、都穆の論に反対する人を、強く非難する姿勢を表明したものである。
- b 「是ならざるに非ず」と読み、都穆の論には全面的には賛成できないという認識を示した言葉である。
- c 「是とせずんば非ず」と読み、都穆の論を、通説に反しても、積極的に支持する立場を表している。
- d 「是ならざれば非とす」と読み、都穆の論はどこから見ても誤りであると主張している。

問四 傍線部4「今世作詩者」について、本文で述べられていることと合致しないものを、次の中から一つ選べ。

- a その多くが素早く詩を完成させることにこだわっている。
- b 作詩の早さに気を取られ、一首としてのまとまりを欠く事がある。
- c 優れた語句の選択に時間を費やし、詩の趣を損なってしまう傾向がある。
- d 作詩の手際よさを競う詩人たちの中には、そのための実力を欠く者もいる。

問五 傍線部5「徒」と同じ意味で「徒」の字が用いられている語はどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 徒隸
- b 徒食
- c 徒党
- d 徒歩

問六 傍線部6「欲以使人感焉耳」に返り点を施したものとしてみっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 欲_レ以_レ使_レ人感_レ焉_レ耳
- b 欲_レ以_レ使_レ人感_レ焉_レ耳
- c 欲_レ以_レ使_レ人感_レ焉_レ耳
- d 欲_レ以_レ使_レ人感_レ焉_レ耳

問七 本文における筆者の態度についての説明として適切でないものを、次の中から一つ選べ。

- a 詩の価値そのものは認めている一方で、それに没頭してしまうことを戒めている。
- b 初心者を意識して、実際の作詩に役立つような、具体的な助言がなされている。
- c 杜甫のような大詩人に対しても、権威に左右されることなく冷静な批評がなされている。
- d 詩人が語句・表現に凝ることに対しては、詩の本義にもとるとして否定的である。

問八 本文に登場する賈島・孟郊と、もっとも関係の深い人物を、次の中から一人選べ。

- a 韓愈
- b 白居易
- c 柳宗元
- d 元稹

